

ライフスタイルと情報行動

—ICT 利用のライフスタイル研究—

○水野 一成（NTTドコモ モバイル社会研究所），飽戸 弘（東京大学名誉教授）

キーワード：ライフスタイル，ICT，情報取得行動

1. 研究背景

70代においても、スマートフォン（以下スマホ）所有が83.0%[1]に達し、多くの人がスマホを所有する時代となった。モバイル社会研究所では、ライフスタイルとICT利活用を中心に調査を継続し実施している。本報告では2024年1月に実施した調査結果を基に、ライフスタイルの類型化を行う。そして、各クラスタの情報行動の違いを明らかにする。

2. 調査概要

調査時期：2024年1月

対象：関東 15歳-79歳 調査方法：訪問留置調査

3. 調査結果

ライフスタイルに関わる設問[2]は、イノベータ・情報欲求・個性/同調・即時/遅延の概念、それぞれ2~4問、4件法で実査を実施。その結果を基に、因子分析を行った。その結果は表1の通り、「即時」「他者意識」「イノベータ」の3因子を抽出した。

表1 ライフスタイル 因子分析

	即時	他者意識	イノベータ
【即時/遅延】臨時収入 A:すぐ使う/B:貯蓄し特別な支出に回す	0.83	0.03	0.10
【即時/遅延】欲しい物の購入 A:ローン利用/B:積み立ててから	0.68	0.01	0.12
【情報欲求】他人が知っていて、自分が知らないことがあると非常に恥ずかしい	-0.02	0.71	0.10
【同調/個性】みんなと同じようなものを着ていないと何となく不安になる方だ	0.12	0.59	-0.03
【同調/個性】洋服などを買う場合、一般的にあまり抵抗のなさそうなものを買う方だ	0.02	0.44	-0.26
【情報欲求】どんなことでも、できるだけ詳しく徹底的に知ろうとする	-0.06	0.32	0.30
【イノベータ】新しい仕事をしたい/B:同じ仕事が好き	0.25	-0.05	0.50
【イノベータ】同じものの使用 A:飽きてしまう/B:取り換えられない	0.26	0.06	0.40
【イノベータ】友達が変わった物を持っている A:すぐ欲しくなる/B:気にならない	0.30	0.23	0.37
【イノベータ】レストラン A:食べたことのない注文が楽しみ/B:なじみのものは安心	-0.02	-0.07	0.37

3因子を基に、クラスタ分析を行った結果が表2である。4クラスタに分け、それぞれ因子得点の高低から「行動派」「大衆派」「自己慎重派」「積極派」とした。年代別構成比は図1の通り、「積極派」は若年層、「自己慎重派」はシニア層で割合が高くなる。

情報行動であるが、「ニュースで取得する手法（複数回答）」で見る。各クラスタごとのニュース取得方法の結果は表3で示す。「積極派」は全体的に高く、特にICTに関する項目が高い。「自己慎重派」は人から非対面（メール・電話等）やSNSの割合が低い。

表2 クラスタ分析

	行動	大衆	自己慎重	積極
即時	1.04	-0.46	-0.65	0.64
他者意識	-0.42	0.86	-0.57	0.42
イノベータ	-0.23	-0.20	-0.16	0.74
回答者数	91	106	159	90
構成比(%)	20.4	23.8	35.7	20.2

図1 クラスタ年代別構成比

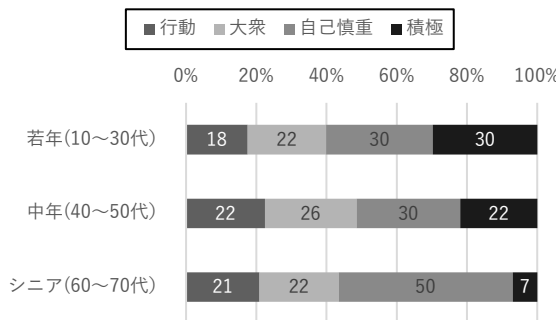


表3 ライフスタイル 因子分析

	全体	行動	大衆	自己慎重	積極	全体
新聞		33.3	45.7	44.7	35.6	40.8
ラジオ		15.6	12.4	18.9	23.3	17.6
テレビ		77.8	86.7	83.0	84.4	83.1
SNS		50.0	51.4	40.9	72.2	51.6
web		42.2	55.2	50.9	70.0	54.1
人から非対面		18.9	21.9	13.2	26.7	19.1
人から対面		31.1	35.2	31.4	36.7	33.3

■ <0.05

なお、情報取得方法は年代による影響を受けるが、年代別に結果を見ても、大きな傾向の差は見られなかった。また、各クラスタごとにインターネット利用時間を確認したが「積極派」が有意に長い結果であり、こちらも全年代で同様の傾向が確認された。

参考情報

[1] NTTドコモモバイル社会研究所:シニアのスマホ所有 (<https://www.mobaken.jp/project/seniors/seniors20240318.html>, 2024.03.018)(2024)

[2] 飽戸弘(1987)『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社, 292-305